

社団法人 環境科学会2011年会

プ ロ グ ラ ム

社団法人
環 境 科 学 会

社団法人 環境科学会 2011 年会

日 時：2011 年 9 月 8 日（木）～ 9 月 9 日（金）

会 場：関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス（D 号館および第 4 別館）

〒 662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番 1-155

JR 西宮駅バス停①のりばからバス 約 15 分

（推奨）阪急電鉄－甲東園駅バス停②のりばからバス 約 5 分

徒歩 約 12 分

阪急電鉄－仁川駅から 徒歩 約 12 分

http://www.kwansei.ac.jp/pr/pr_001086.html

参加費：事前申し込み制度はありません。

当日、「**総合受付**」で参加票に必要な事項をご記入の上、下記の参加費を添えて参加登録をお願い致します。
（講演要旨集代を含む）

正会員	6,000 円	準会員	3,000 円
非会員	9,000 円	非会員学生	5,000 円

懇親会：9 月 8 日（木）18：30～20：30

関西学院大学内 関西学院会館 「光の間」

会 費 5,000 円（社会人）、1,000 円（学生）

お問合せ先：

● 2011 年会実行委員会

実行委員長 松村寛一郎

関西学院大学 総合政策学部メディア情報学科

〒 669-1337 兵庫県三田市学園 2-1

E-mail: any85636@kwansei.ac.jp（お問合せは電子メールをお願い致します）

● 環境科学会 事務局（<http://www.ses.or.jp/>）

〒 135-0006 東京都江東区常盤 2-9-6

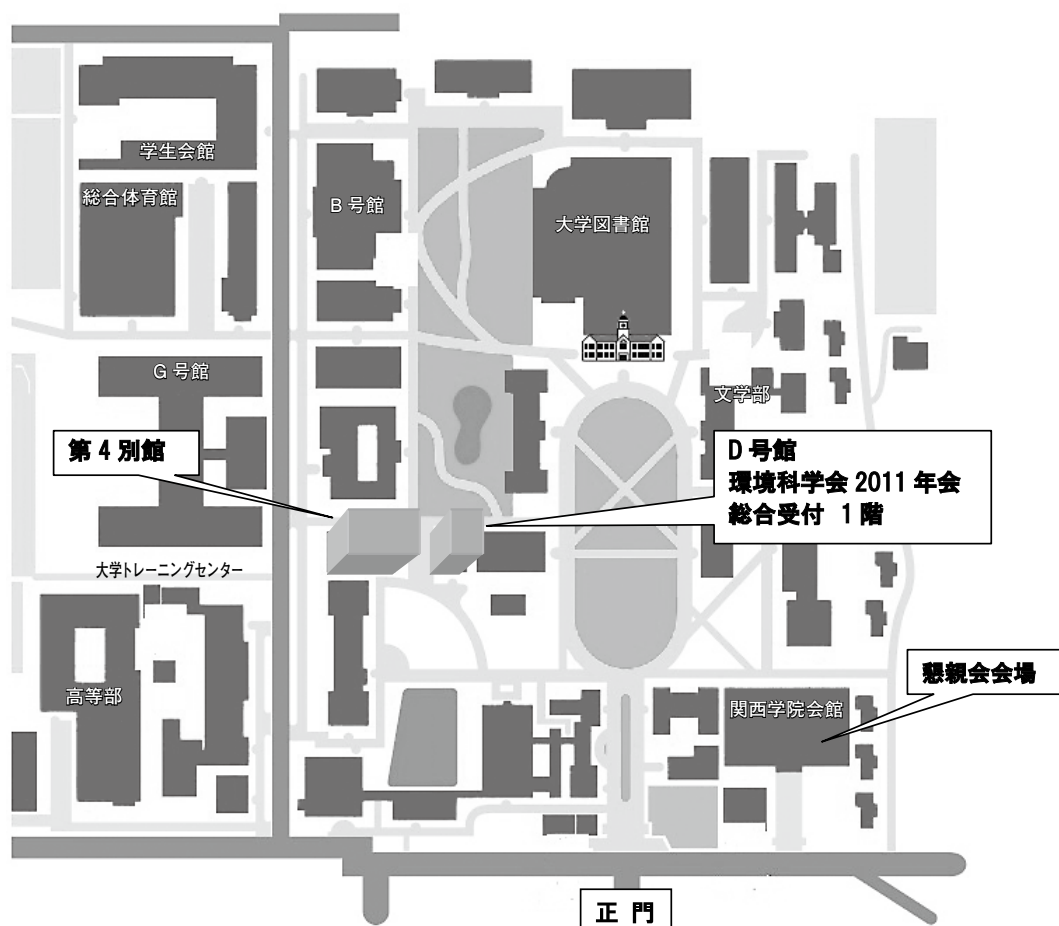
グリーンプラザ深川常盤 201

TEL: 03-3634-2942 FAX: 03-3634-2943

E-mail: office@ses.or.jp

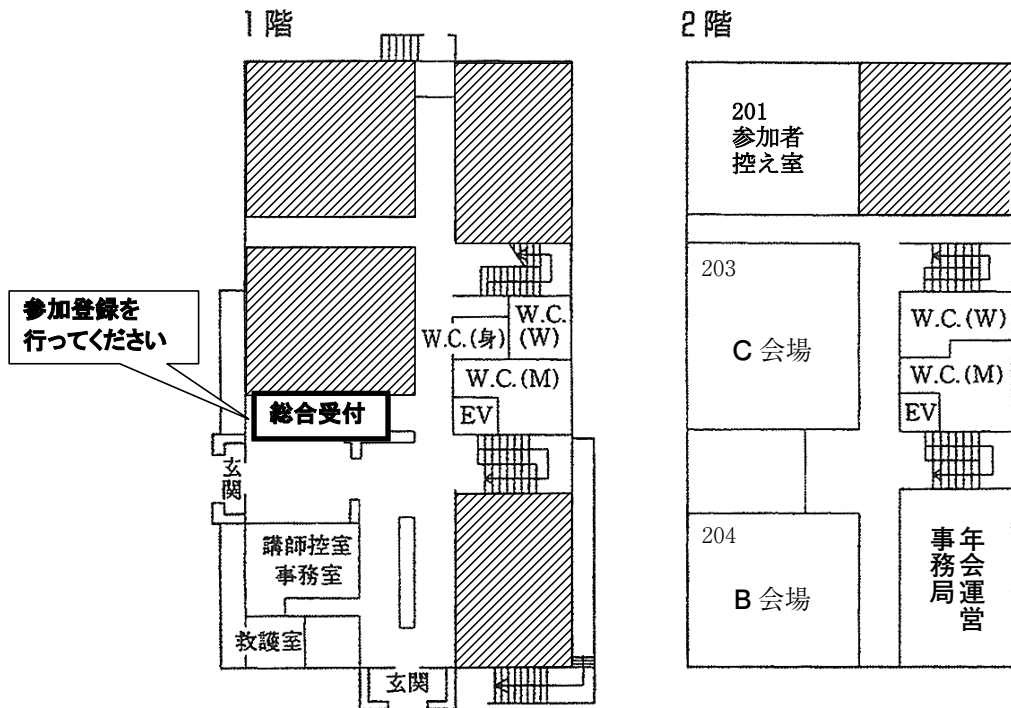
関西学院大学 西宮上ヶ原キャンパス

会場周辺図



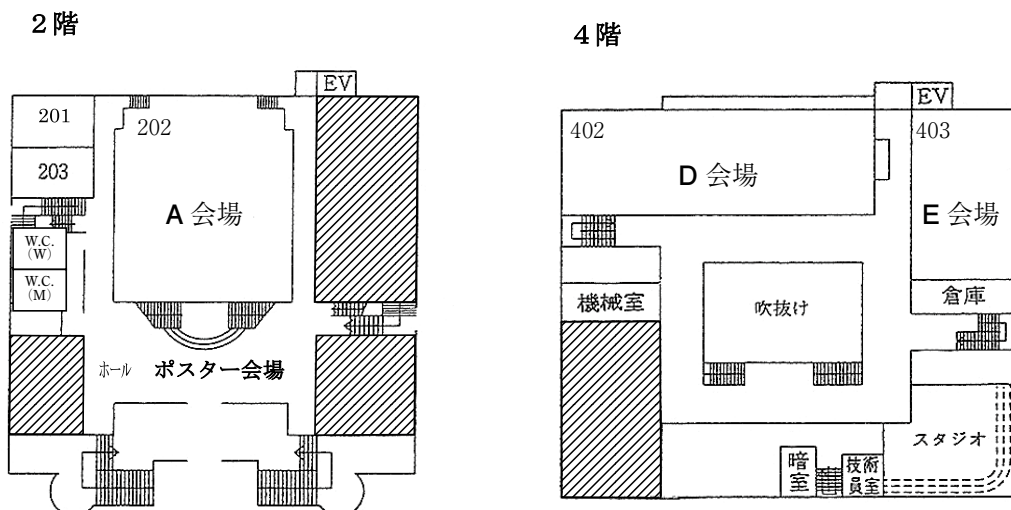
会場案内

(D号館) B会場・C会場

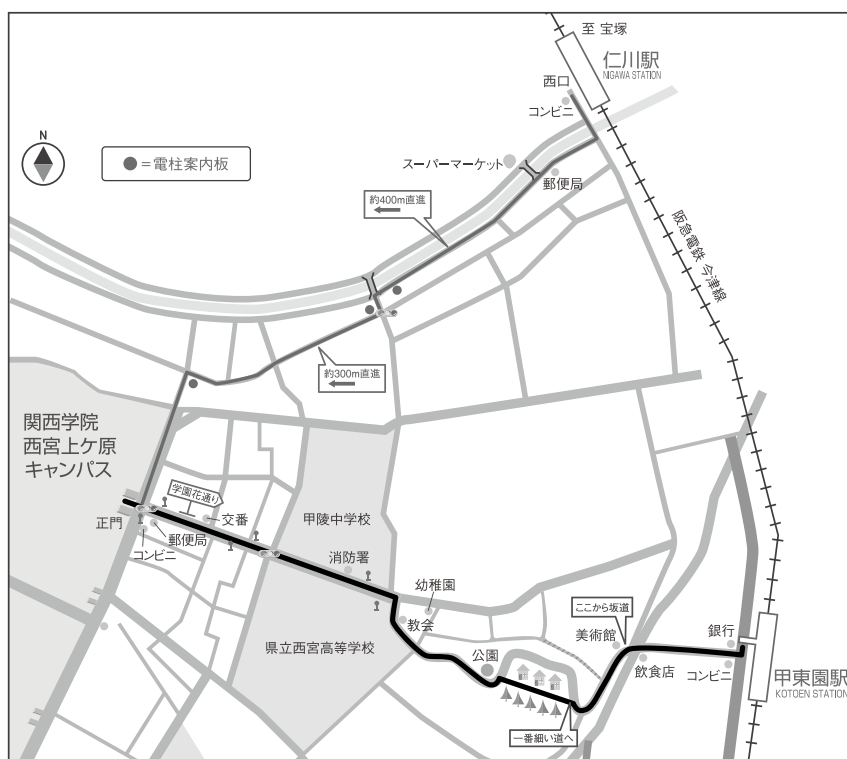
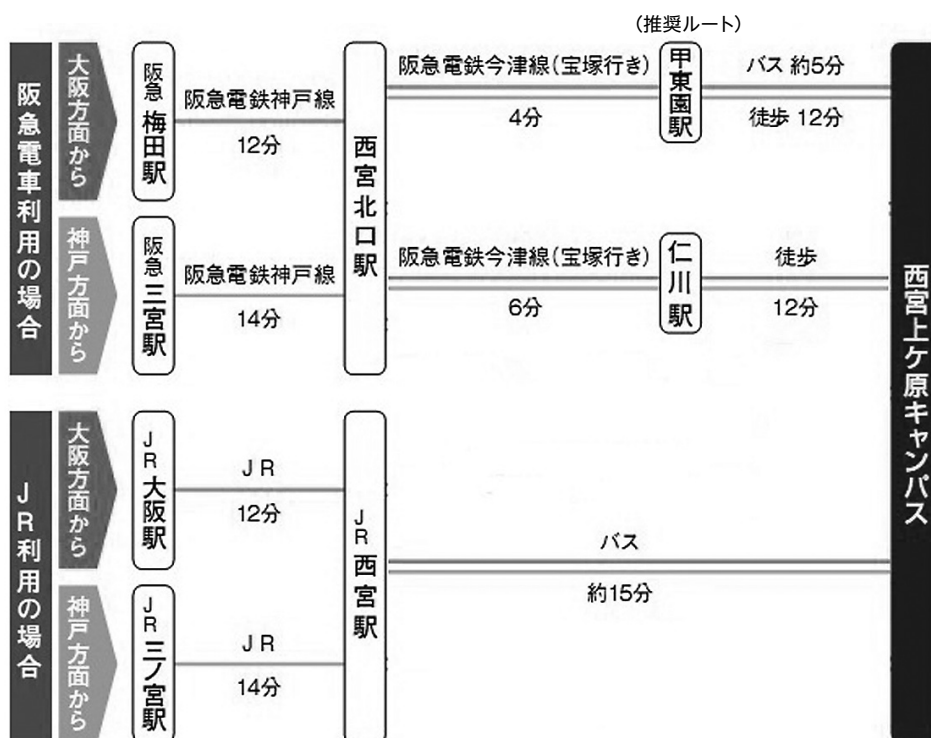


(第4別館) A会場・D会場・E会場

※3階には会場はありません。



会場へのアクセス方法および最寄駅からのルート



発表者の方々へ

1. 参加登録

口頭発表、シンポジウムならびにポスター発表、いずれに関しても、必ず参加登録を行ってください。

2. 発表時間

口頭発表：15分（発表10分、質疑応答及び入れ替え5分）

シンポジウム：オーガナイザーにお問い合わせください。

ポスター発表：9月8日（木）11:00までにポスターを所定の場所に掲示してください。

コアタイムは9月8日（木）12:00～13:00です。発表者の方はポスター前にお集まりください。

3. 発表方法

口頭発表

- ・PC プロジェクトとパソコン（Windows）を用意します。
- ・原則として OHP は用意いたしません。
- ・持参されたパソコンの接続はできません。必ずファイルを媒体に入れてご持参ください。
- ・媒体は CD-R、USB メモリのいずれかとします。
- ・ソフトは PowerPoint2003 で、2007 のファイルは 2003 形式で保存をお願いします。
- ・PowerPoint のファイル名には、必ず発表者の氏名を含めてください。
- ・各セッション開始の 10 分前までに、発表会場のパソコンにファイルをコピーしてください。必要があれば、ファイルコピーを会場係がお手伝いしますが、発表時のパソコン操作は各自で行ってください。

シンポジウム

- ・PC プロジェクトとパソコン（Windows）を用意します。
- ・持参されたパソコンの接続については、オーガナイザーにご相談ください。
- ・媒体、ソフトについては、口頭発表と同様です。その他の機器が使われる場合は、オーガナイザーにお問い合わせください。

ポスター発表

- ・掲示は 9:15 から行うことができます。
- ・掲示に必要な紙、テープ等は事務局で用意いたします。
- ・パネルのサイズは横 88cm × 縦 198cm です。ポスターは A0 サイズ（縦）以内でご用意ください。
- ・机や電源などの掲示板以外の設備が必要な場合は、事前に実行委員会までメールでお問い合わせください。ご希望に沿えない場合もありますのでご了承ください。
- ・9月9日（金）15:30 までに各自で撤去願います。多くの方に成果を見ていただけるよう、できるだけ長く掲示いただけるようお願い致します。
- ・規定時間を過ぎても撤去されていないポスターは、年会実行委員会が撤去・廃棄致しますことを、ご了承ください。

社団法人 環境科学会 2011 年会 プログラム

会場名		A会場	B会場	C会場	D会場	E会場	ポスター会場
部屋番号		202 (300名)	D-204 (70名)	D-203 (100名)	402 (203名)	403 (144名)	2Fホール
9月8日 (木)	9:00	S-1 創立25周年記念 市民公開特別シンポジウム 「東日本大震災における 環境科学の役割」 (社) 環境科学会 9:30～11:45					9:15から掲示できます
	9:15						
	9:30						
	9:45						
	10:00						
	10:15						
	10:30						
	10:45						
	11:00						
	11:15						
	11:30						
	11:45						
	12:00	S-2 市民公開特別シンポジウム 「生物多様性条約 COP10～その成果と今後の展開」 大塚柳太郎 13:15～15:15					優秀発表賞 投票締切 13:30
	12:15						
	12:30						
	12:45						
	13:00	環境技術実証事業 13:00～13:10 環境省					S-3 「温暖化問題の解決に向けたシナリオアブ ローチ」 ～学術受賞記念 シンポジウム～ 甲斐沼美紀子 奨励賞受賞記念講演 脇岡靖明 13:15～15:45 S-4 「地域物質循環の評価と適正規模」 後藤尚弘 13:15～15:45
	13:15	口頭発表-1B-1 13:15～14:30		口頭発表-1C-1 13:15～14:30			
	13:30	口頭発表-1B-2 14:45～15:45		口頭発表-1C-2 14:45～15:45			
	13:45	口頭発表-1B-3 16:00～17:15		口頭発表-1C-3 16:00～17:00 論文賞受賞記念講演 瀧口博明			
	14:00	口頭発表-1A-1 15:30～17:00		口頭発表-1D-1 16:00～17:00			
	14:15	口頭発表-1E-1 16:00～17:00 奨励賞受賞記念講演 馬奈木俊介					
	14:30						
	14:45						
	15:00						
	15:15						
	15:30						
15:45							
16:00							
16:15							
16:30							
16:45							
17:00							
17:15							
17:30							
17:45							
18:00							
18:15							
18:30	懇親会(若手育成事業表彰式を含む)18:30～20:30「関西学院会館」2F「光の間」						

9月9日 (金)	9:00					
	9:15					
	9:30					
	9:45					
	10:00					
	10:15					
	10:30					
	10:45					
	11:00					
	11:15					
	11:30					
	11:45					
	12:00					
	12:15					
	12:30					
	12:45					
	13:00					
	13:15					
	13:30					
	13:45					
	14:00					
	14:15					
	14:30					
	14:45					
	15:00					
	15:15					
	15:30					
	15:45					
	16:00					
	16:15					
	16:30					
	16:45					

口 頭 発 表

【第1日目(9月8日) 午 後】

A会場(第4別館202教室) 口頭発表-1A-1 (15:30～17:00)

座 長： 橘 隆一(東京農業大学)

- 1A-1530 沿岸大都市における防災・インフラ分野の気候変動適応をめぐる専門家の認知構造
○馬場健司(電力中央研), 須田英子, 脇岡靖明(国環研)
- 1A-1545 森林作業道における拡水処理が表面浸食特性に及ぼす影響
○三平祐樹(東京農大・院・農学), 福永健司, 太田猛彦, 橘 隆一(東京農大・地域環境)
- 1A-1600 大気汚染による土壌の酸性化と樹木の立ち枯れの関係
○大森禎子, 吉池雄蔵(元東邦大・理), 岡村 忍(東邦大・理), 岩崎眞理(足利工大・付属高校)
- 1A-1615 気候変動枠組条約と生物多様性条約における制度間のギャップ: REDDの事例より
○森田香菜子(国環研・社会)
- 1A-1630 兵庫県但馬地域における住民のツキノワグマに対する意識と被害対策実施の有無
○桜井 良(フロリダ大・院), 上田剛平(兵庫県但馬県民局), ジャコブソン, K. スーザン(フロリダ大)
- 1A-1645 環境行政による環境資料の作成と活用に関する現状と課題
○遠藤はる奈(環境自治体会議), 中村 修(長大・院)

B会場(D号館204教室) 口頭発表-1B-1 (13:15～14:30)

座 長： 松村寛一郎(関西学院大学)

- 1B-1315 日本における企業の潜在的な被害リスクと利益に関する実証研究
○小侯幸子(東工大・社理工)
- 1B-1330 日本企業における化学物質削減要因に関する実証研究
○小侯幸子(東工大・社理工)
- 1B-1345 中小企業経営における「環境配慮」の実態調査—都市立地型素材成形加工業を中心として—
○武者英之(三協物産(株)), 永田勝也(早大・院・環エネ)
- 1B-1400 産業別のグリーンサプライチェーンマネジメントの実証研究: 日本の製造業の事例
○孫 穎, 平野勇二郎(国環研・社会), 宮寺哲彦(産総研・太陽光), 藤田 壮(国環研・社会), 森 昌寿(京大・院・地球)
- 1B-1415 国際資源循環ビジネスモデルの構築に向けた検討—上海・江蘇省における廃家電・自動車リサイクルの実態調査と分析—
○宇津木隼, 永田勝也, 小野田弘士, 胡 浩, 李 霖(早大・院・環エネ)

B会場(D号館204教室) 口頭発表-1B-2 (14:45～15:45)

座 長： 棟居洋介(東京工業大学)

- 1B-1445 やまなし環境学習プログラムの開発
○島崎洋一(山梨大)
- 1B-1500 地域におけるエネルギー技術評価モデルの開発
○島崎洋一(山梨大)
- 1B-1515 市民活動としての環境教育の実践と展望
○菊沢正裕(福井県大・学術教養セ)
- 1B-1530 リベラルアーツ教育におけるサイエンティフィック・リテラシーと大学の環境教育
○内山弘美(愛知教育大)

B会場 (D号館204教室) 口頭発表-1B-3 (16:00～17:15)

座 長: 島崎洋一 (山梨大学)

- 1B-1600 グローバルスケールでの主要穀物単収との気象条件
○松村寛一郎 (関西学院大)
- 1B-1615 気候モデルによる出力結果のダウンスケーリングとその利用
○杉本賢二 (東大・EDITORIA), 柴崎亮介 (東大・空間セ)
- 1B-1630 気候変動が世界砂糖需給予測に与える影響試算
○小泉達治 (農水政策研)
- 1B-1645 森林保護下での世界食料生産に関する分析
○林 礼美, 秋元圭吾 ((財)地球環境産技研・シス研 G)
- 1B-1700 バイオマスプラスチックの普及が世界の食料不安に及ぼす影響の長期評価
○棟居洋介 (東工大・院・社理工)

C会場 (D号館203教室) 口頭発表-1C-1 (13:15～14:30)

座 長: 一ノ瀬俊明 ((独)国立環境研究所)

- 1C-1315 国産材の利用に関する住民意識調査
○大川智船, 佐藤真行, 吉岡崇仁 (京大・フィールド研)
- 1C-1330 消費者選好の効用と製品の利用形態を考慮した環境効率
○関悠一郎, 若林英佑, 中嶋崇史 (早大・院・環エネ), 小野田弘士 (早大・環境総研), 永田勝也 (早大・院・環エネ)
- 1C-1345 自動車の環境配慮設計の定量評価手法の構築に関する検討
○平松信人 (早大・院・環エネ), 小野田弘士 (早大・環境総研), 永田勝也 (早大・院・環エネ)
- 1C-1400 省エネ診断シートのフィードバックが家庭の省エネ行動に与える影響の分析
○中口毅博 (芝浦工大), 貝瀬康斗 (館林市役所)
- 1C-1415 食品廃棄物由来飼料を給餌した豚肉の消費者受容性への環境情報提供の影響
○栗島英明 (芝浦工大・工), 菱沼竜男 (宇都宮大・農), 玄地 裕 (産総研)

C会場 (D号館203教室) 口頭発表-1C-2 (14:45～15:45)

座 長: 立花潤三 ((地独)鳥取県産業技術センター)

- 1C-1445 マルチメディアモデルを用いた中国遼寧省でのダイオキシンの挙動予測
○李 延楠, 近藤明, 井上義雄 (大阪大・院・工)
- 1C-1500 中国におけるクリマアトラスを通じた都市熱環境配慮型都市開発の実現
○一ノ瀬俊明 (国環研/名大), 陳 宏 (華中科技大)
- 1C-1515 国勢調査基準地域メッシュデータを用いた地域内人口分布の経年変化
○有賀敏典, 松橋啓介, 米澤健一 (国環研・社会)
- 1C-1530 性別・年齢階層別自動車利用特性と細密人口予測に基づく自動車起因 CO₂ 排出量の推計
○岩下達也, 松本 亨 (北九州市大・国際環境工)

C会場 (D号館203教室) 口頭発表-1C-3 (16:00～17:00)

座 長: 有賀敏典 ((独)国立環境研究所)

- 1C-1600 リサイクル PET/E-GMA/PBT ブレンドの耐熱トレイ素材開発に関する研究
国宗敬弘, ○玉田周平, 国宗範彰, 山田和志, 濱田泰以 (京都工繊大)
- 1C-1615 リサイクルした天然繊維を用いて作製した複合素材に関する研究
○陽 玉球 (京都工繊大・伝統), 濱田泰以 (京都工繊大・先端)
- 1C-1630 パーソナルコンピュータ用電子部品に含有される金属元素分析 (Ⅲ)
○中澤克仁, 胡 勝治 (富士通研究所)
- 1C-1645 論文賞受賞記念講演: 太陽電池の 3R 評価モデルの構築
○瀧口博明 (環境省水・大気環境)

D会場（第4別館402教室） 口頭発表-1D-1（16：00～17：00）

座 長： 中口毅博（芝浦工業大学）

- 1D-1600 地域の温暖化対策における再生可能エネルギーの効果に関する分析
○高橋 央（東工大・院・社理工），増井利彦（国環研）
- 1D-1615 産業構造の変化と CO₂ 排出量
○佐藤雄也，稲垣貴大（中央大・理工）
- 1D-1630 グリーン ICT の普及が日本の二酸化炭素削減に与える影響の分析
○山中康寛（東工大・院・社工）
- 1D-1645 中国の都市における二酸化炭素の排出要因分析と将来シナリオ予測
○白 金鶴，松本 亨（北九州市大・国際環境工）

E会場（第4別館403教室） 口頭発表-1E-1（16：00～17：00）

座 長： 平野勇二郎（（独）国立環境研究所）

- 1E-1600 循環資源の品目特性と処理効率に基づいた最適循環圏に関する分析
○藤山淳史，松本 亨（北九州市大・国際環境工）
- 1E-1615 畜産排水の液肥化による地域資源循環システムの確立
○金村静香，金澤伸浩，嶋崎善章（秋田県大・システム），佐々木浩一（県・農林水試），小川敦史（秋田県大・生物）
- 1E-1630 資源循環システムのライフサイクルアセスメントに関する研究～食品廃棄物の有効利用の提案～
○大村健太，永田勝也，小野田弘士，胡 浩，皆川雅志，宇津木隼（早大・院・環エネ）
- 1E-1645 奨励賞受賞記念講演：持続可能な発展のための経済分析：環境効率の観点から
○馬奈木俊介（東北大学・院・環科）

【第2日目（9月9日） 午 前】

B会場（D号館204教室） 口頭発表-2B-1（09：00～10：30）

座 長： 田畑智博（神戸大学）

- 2B-0900 NMRによる環境汚染物質市販標準品の純度評価
田原麻衣子，小林憲弘，久保田領志，清水久美子，○杉本直樹，合田幸広，西村哲治（国立衛研）
- 2B-0915 化管法対象物質の GC/MS 包括一斉分析の可能性検討
○亀屋隆志（横浜国大・院・環情），村田夏樹，松本祐典（横浜国大・工学），勝俣宏信，小池瑛子，齋藤美穂（横浜国大・院・環情）
- 2B-0930 鉛の動態解析 **Multimedia Model** の開発
○山本 恵，近藤 明，井上義雄，加賀昭和（大阪大・院・工）
- 2B-0945 重金属投与後のラット腎臓サイトゾール中での重金属の蓄積における MT の役割
○齋藤 秀（北大・理）
- 2B-1000 塗装乾燥炉から発生するヤニの成分分析および触媒分解性能評価
○萩原利哉，小島正行，染川正一，藤井恭子，篠田 勉（都産技研）
- 2B-1015 水道における農薬類の管理のための分析法の最適化
○小林憲弘，田原麻衣子，久保田領志，清水久美子，杉本直樹，西村哲治（国立衛研）

B会場（D号館204教室） 口頭発表-2B-2（10：45～12：15）

座 長： 亀屋隆志（横浜国立大学）

- 2B-1045 土壁を用いた室内環境の変化に関する研究
○鷹尾憲一（（株）エイチ・イン・ソリューション），佐藤ひろゆき（京都工繊大），辻 俊（大阪産大），越野哲史（京都工繊大），吉川貴士（新居浜工高専），高井由香（京都工繊大），後藤彰彦（大阪産大），濱田泰以（京都工繊大）
- 2B-1100 光触媒シートを利用した室内臭気の改善
○桐谷久恵，砂田香矢乃，横山邦雄（東大先端研），橋本和仁（東大・院・工 / 東大先端研）

- 2B-1115 ピネン類の個人曝露 / 室内外濃度とそのリスク評価
○三宅祐一, 孫 琿玢, 雨谷敬史 (静岡県大・院・生活健康)
- 2B-1130 廃糖蜜由来の暗色物質のファイトレメディエーションへの利用
○金沢一樹, 角田欣一, 窪田健二, 秦野賢一 (群馬大・院・工)
- 2B-1145 メタン発酵における可溶化技術の効果
○中道隆広 (長総大), 甲斐穂高 (鈴鹿高専), 中島琢自 (北里大), 大西正人 (九電工), 高橋洋子 (北里大), 大場和彦 (長総大), 石橋康弘 (熊県大)
- 2B-1200 民生由来漂着ごみの指標としてのライターとペットボトル
○岡野多門, 安東重樹 (鳥取大・院)

D 会場 (第4 別館402 教室) 口頭発表-2D-1 (11:15 ~ 12:15)

座 長: 佐伯 孝 (富山県立大学)

- 2D-1115 論文賞受賞記念講演: 鳥取県における低炭素社会実現可能性に関する研究
○立花潤三 (鳥取県産業技術セ), 迫田章義 (東大・生研), 門脇 互, 山田 強, 玉井博康, 稲永 忍 (鳥取県産業技術セ), 鈴木基之 (東工大 / 東大)
- 2D-1130 国内エネルギー政策に, より効果を持たせるには
○本多純子, 荻野大介 (早大・院・環エネ)
- 2D-1145 東京都排出量取引制度における企業の再生可能エネルギー導入に係る意思決定プロセスに関する研究
○竹見康裕 (早大・院・環エネ)
- 2D-1200 消費者行動による循環型社会と低炭素社会の両立に関する分析
○田邊千英 (元東工大), 増井利彦 (国環研)

E 会場 (第4 別館403 教室) 口頭発表-2E-1 (11:15 ~ 12:15)

座 長: 三宅祐一 (静岡県立大学)

- 2E-1115 六価クロムのリスク把握を目的とした大気中濃度の実測と大気拡散モデルによる推定
○小野恭子 (産総研・安全科学) 豊田照子, 嶋田真次 ((株) 島津テクノリサーチ), 根津豊彦 (神戸市立高専)
- 2E-1130 越境大気汚染に関する科学者・政策決定者の認識についての研究—日本における面接調査結果—
○松本奈穂子 ((財) 地球環境戦略研)
- 2E-1145 レーダーアメダス解析雨量を用いた関東地方における対流性降雨の抽出
○白木洋平, 重田祥範 (立正大・地球)
- 2E-1200 20 年間の分析結果 “降水の溶存化学種から見た八王子の大気環境”
○松塚雅博 (杏林大・保健), 石川友美 (静岡県大・生活健康), 関 健介, 金子哲也 (杏林大・保健)

【第2日目(9月9日) 午 後】

A 会場 (第4 別館202 教室) 口頭発表-2A-1 (13:30 ~ 14:30)

座 長: 山本佳世子 (電気通信大学)

- 2A-1330 首都圏を対象とした家庭部門のエネルギー機器保有状況とエネルギー需要の要因分析
○岡川 梓 (国環研)
- 2A-1345 川崎市における冷房の省エネルギーとその CO₂ 削減効果の数値シミュレーション
○平野勇二郎, 孫 穎, 藤田 壮 (国環研・社会)
- 2A-1400 上海市の水環境問題の診断と治療—窒素フローの視点から—
○劉 晨 (名大・環境)
- 2A-1415 A Study on the Correlation between Land Use and Stream Water Quality in the Tama River Watershed Using GIS
○Nisrina Setyo Darmanto, Kayoko Yamamoto (電通大・院・情報)

B会場（D号館204教室） 口頭発表-2B-3（13：30～14：30）

座 長： 松本安生（神奈川大学）

- 2B-1330 食品製造業におけるゼロエミッション活動の評価方法の提案に関する研究
○張 世峰, 山本佳世子（電通大・院・情報）, 和泉 潤（名古屋産大）
- 2B-1345 故障リスクを考慮した風力発電の経済性評価
○佐藤好浩（NRI・社会システム）, 阿部直也, 片谷鉄平（東工大・国際開発）
- 2B-1400 適応関連基金の配分の優先順位づけのあり方に関する比較分析
○久保田泉（国環研）
- 2B-1415 豊島における地域再生を目指した情報共創システムの構築
永田勝也（早大・院・環エネ）, 小野田弘士, 切川卓也（早大・環境総研）, 下村健太, 平松信人,
○築山 亮（早大・院・環エネ）

B会場（D号館204教室） 口頭発表-2B-4（14：45～15：45）

座 長： 荒巻俊也（東洋大学）

- 2B-1445 販売時点情報管理データを用いた消費者の購買行動と環境情報に関する実証分析
○安田真智子, 松本 亨（北九州市大・国際環境工）
- 2B-1500 統合化指標 ELP を応用したライフスタイルアセスメントに関する検討
○花園竜三, 山内崇裕（早大・環エネ）, 永井祐二, 小野田弘士（早大・環境総研）,
永田勝也（早大・院・環エネ）
- 2B-1515 統合化指標 ELP の中国への適用性に関する研究
～中国の国民性を反映したカテゴリー重要度分析～
○李 霖, 宇津木隼（早大・院・環エネ）
- 2B-1530 ファーム・ゲート・バランス法を用いた窒素収支の定量分析—有機酪農を事例として—
○吉田裕介（北大・農）, 増田清敬（滋県大・環）, 山本康貴（北大・農）

B会場（D号館204教室） 口頭発表-2B-5（16：00～16：45）

座 長： 高梨啓和（鹿児島大学）

- 2B-1600 光触媒を用いた環境浄化システムのセレン酸含有廃水処理への応用
○中島常憲, 山田健太, 上戸 龍, 高梨啓和, 大木 章（鹿大・院・理工）
- 2B-1615 微量有害物質の生物処理における分解挙動
○齋藤美穂, 亀屋隆志, 石川浩輔（横浜国大・院・環情）, 三保沙織（横浜国大・工学）,
小林 剛, 藤江幸一（横浜国大・院・環情）
- 2B-1630 生態毒性物質の環境モニタリングと季節変動
○小池瑛子, 亀屋隆志, 鳥海 航, 小林 剛, 藤江幸一（横浜国大・院・環情）

C会場（D号館203教室） 口頭発表-2C-1（13：30～14：30）

座 長： 白川博章（名古屋大学）

- 2C-1330 バイオ燃料推進と窒素循環：温室効果ガス排出の視点からの解析
○林 彬勲（産総研・安全科学）
- 2C-1345 インドネシアにおけるバイオ燃料の需給現状と課題
○文 多美, 白川博章（名大・院・環境）
- 2C-1400 バイオディーゼル燃料精製プロセスの省エネルギー化
○高梨啓和, 中島常憲, 大木 章, 甲斐敬美（鹿大・院・理工）, 丸山守人, 伊庭 誠,
阿部和麻（キャメロンジャパン）
- 2C-1415 糸状緑藻の資源化に関する研究
○下ヶ橋雅樹（東京農工大・環境リーダー）, 周 勝, 寺田昭彦, 細見正明（東京農工大・院・工）

ポスター発表（優秀発表賞応募発表も含む）

掲示可能期間： 9月8日（木）09：15 ～ 9月9日（金）15：00（15：30までに各自撤去願います）

コアタイム： 9月8日（木）12：00 ～ 13：00（発表者はこの間、必ずポスター前にお集まりください）

- P-01 都道府県別における低炭素社会実現のための政策評価ツールの作成
○大西暁生（富山県大・工）、奥岡桂次郎、石 峰（名大・環境）、森杉雅史（名城大・都市情報）
- P-02 黄河流域における水需要ギャップの詳細空間分布の把握
○大西暁生（富山県大・工）、石 峰（名大・環境）、森杉雅史（名城大・都市情報）
- P-03 酵素活性化反応を通し環境運動を再考する
○畠山貴博（慶應大・環境）
- P-04 道路建設の資源消費の変遷に関する研究
○佐光眞伍、後藤尚弘（豊橋技科大・工）
- P-05 アジア域ネスティングモデルによる現行農薬等の大気中濃度分布と実測値との比較
○西森基貴、小原裕三（農環研）
- P-06 縞枯山の写真に見る縞枯現象の80年間の軌跡
○小曾戸貴典、本橋 章（電大・理工）
- P-07 環境に関して議論するパーソナル・ネットワークが環境配慮行動に及ぼす効果の検討
—強い紐帯・弱い紐帯の効果の定量的分析—
○高浦佑介、池田謙一（東大・院・人社）
- P-08 社会的企業への参加と社会貢献意識の醸成に関する研究
○永野亜紀（九大・院・芸工）
- P-09 安定型産業廃棄物処分場ボーリング調査の持つ意味
木村壮太郎（関大・商）、○菰田綾佳（関西福祉科学大・社福）、山本千裕（金剛高）
- P-10 淀川河川中における抗インフルエンザ薬タミフル及びその活性代謝物、リレンザ、アマンタジンの濃度推移
○東 剛志、中田典秀、山下尚之、田中宏明（京大・院・流域圏セ）
- P-11 大阪星田妙見宮社寺林の衰退度と土壌酸性化調査
○武田一宏、伊藤和男（大阪府立大高専）
- P-12 胎便を用いた重金属曝露評価に関する研究
○梁 娟實、中井里史（横浜国大・院・環境）、小田しおり、西野廣子（東海大付属病院・看護）、石井美里、横山寛子、松木秀明（東海大・健康科学）
- P-13 農業分野におけるカーボン・オフセット制度の比較分析
○澤内大輔（農水政策研）

- P-14 促進酸化処理法による油汚染土壌の処理条件の検討
○八杉俊行, 猶原 順 (岡山理大・院・総理)
- P-15 学内のエネルギー利用効率化に向けた環境評価
○金澤伸浩, 須知成光, 戸花照雄, 寺本尚史, 長谷川兼一, 嶋崎善章 (秋田県大・システム)
- P-16 室内実験による土粒子の飛砂特性
○木村拓史 (大阪工大・院), 青木一男 (大阪工大), 吉田勝久 (環境コンサルタント)
- P-17 **Accumulation of Deicing Salts and Heavy Metals in Urban Roadside Soils in Northeast China**
F.Li (遼寧石油化工大), Y.Zhang, Z.Fan (湖南農業大), ○K.Oh (埼玉県環境科学国際セ)
- P-18 **Study on Accumulation of Cd in Soil and Rice Grain in Hunan Province, China**
Y.Du, X.F.Hu (上海大), ○K.Oh (埼玉県環境科学国際セ), X.H.Wu, G.Zhang (上海大)
- P-19 重力・重量カテゴリ別の乗用車ライフサイクル CO₂ 排出原単位
○伊藤 圭, 益田悠貴, 柴原尚希, 加藤博和 (名大)
- P-20 リベラルアーツ教育におけるサイエンティフィック・リテラシーと大学の環境教育
○内山弘美 (愛知教育大)
- P-21 中国の水環境に関する国民意識の調査—日本との比較検討を通して—
○劉 晨 (名大・環境), 王 勤学 (国環研), 李 全鵬 (名大), 石村貞夫 (鶴見大), 叶 閔, 雷 阿林 (長江水保研)
- P-22 産業環境システムの耐リスク性—ケーススタディと今後の展望—
○中澤 暦, 八尾哲史, 小島直也, 東海明宏 (大阪大・院・工)
- P-23 微量有害物質の生物処理における分解挙動
○齋藤美穂, 亀屋隆志, 石川浩輔 (横浜国大・院・環情), 三保沙織 (横浜国大・工学), 小林 剛, 藤江幸一 (横浜国大・院・環情)
- P-24 生態毒性物質の環境モニタリングと季節変動
○小池瑛子, 亀屋隆志, 鳥海 航, 小林 剛, 藤江幸一 (横浜国大・院・環情)
- P-25 東京都排出量取引制度における企業の再生可能エネルギー導入に係る意思決定プロセスに関する研究
○竹見康裕 (早大・院・環エネ)
- P-26 兵庫県但馬地域における住民のツキノワグマに対する意識と被害対策実施の有無
○桜井 良 (フロリダ大・院), 上田剛平 (兵庫県但馬県民局), ジャコブソン, K. スーザン (フロリダ大)
- P-27 ファーム・ゲート・バランス法を用いた窒素収支の定量分析—有機酪農を事例として—
○吉田裕介 (北大・農), 増田清敬 (滋県大・環), 山本康貴 (北大・農)
- P-28 自動車の環境配慮設計の定量評価手法の構築に関する検討
○平松信人 (早大・院・環エネ), 小野田弘士 (早大・環境総研), 永田勝也 (早大・院・環エネ)

- P-29 消費者選好の効用と製品の利用形態を考慮した環境効率
○関悠一郎, 若林英佑, 中嶋崇史 (早大・院・環エネ), 小野田弘士 (早大・環境総研), 永田勝也 (早大・院・環エネ)
- P-30 メタン発酵における可溶化技術の効果
○中道隆広 (長総大), 甲斐穂高 (鈴鹿高専), 中島琢自 (北里大), 大西正人 (九電工), 高橋洋子 (北里大), 大場和彦 (長総大), 石橋康弘 (熊科大)
- P-31 グリーン ICT の普及が日本の二酸化炭素削減に与える影響の分析
○山中康寛 (東工大・院・社工)
- P-32 畜産排水の液肥化による地域資源循環システムの確立
○金村静香, 金澤伸浩, 嶋崎善章 (秋田県大・システム), 佐々木浩一 (県・農林水試), 小川敦史 (秋田県大・生物)
- P-33 販売時点情報管理データを用いた消費者の購買行動と環境情報に関する実証分析
○安田真智子, 松本 亨 (北九州市大・国際環境工)
- P-34 食品製造業におけるゼロエミッション活動の評価方法の提案に関する研究
○張 世峰, 山本佳世子 (電通大・院・情報), 和泉 潤 (名古屋産大)
- P-35 循環資源の品目特性と処理効率に基づいた最適循環圏に関する分析
○藤山敦史, 松本 亨 (北九州市大・国際環境工)
- P-36 性別・年齢階層別自動車利用特性と細密人口予測に基づく自動車起因 CO₂ 排出量の推計
○岩下達也, 松本 亨 (北九州市大・国際環境工)
- P-37 中国の都市における二酸化炭素の排出要因分析と将来シナリオ予測
○白 金鶴, 松本 亨 (北九州市大・国際環境工)
- P-38 森林作業道における拡水処理が表面浸食特性に及ぼす影響
○三平祐樹 (東京農大・院・農学), 福永健司, 太田猛彦, 橘 隆一 (東京農大・地域環境)

企画シンポジウム

(現在調整中のものを含みます)

【 1日目 】

創立25周年記念

市民公開特別シンポジウム-1【震災】

シンポジウム1 9月8日(木) A会場 09:30～11:45

「東日本大震災における環境科学の役割」

オーガナイザー 社団法人 環境科学会

挨拶：岡田光正（社団法人 環境科学会会長）

趣旨説明： 未曾有の被害をもたらした東日本大震災は、津波被害、原発停止、製造業の停滞など様々な困難を日本社会に突き付けた。こうした中、環境科学に携わる者の集団である環境科学会として何が貢献できるかを各分野の講演を交えながら議論する。

講演者：①「東日本大震災 これまでの課題 これからの課題」

山中茂樹（関西学院大学 災害復興制度研究所）

②「(調整中)」

環境省

③「復興までを視野に入れた環境情報システムの構築について」

福井弘道（中部大学 中部高等学術研究所）

④「大地震被災地からの環境科学への期待」

高崎みつる（石巻専修大学）

総括討論

市民公開特別シンポジウム-2【COP-10】

シンポジウム2 9月8日(木) A会場 13:15～15:15

「生物多様性条約COP10 ― その成果と今後の展開」

オーガナイザー 大塚柳太郎（(財)自然環境研究センター）理事長
荒巻俊也（東洋大学 国際地域学部）教授

挨拶：大塚柳太郎（(財)自然環境研究センター）

趣旨説明： 生物多様性条約は、1992年にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された国連環境開発会議（地球サミット）で採択された条約のひとつで、生物多様性の保全、その構成要素の持続可能な利用、遺伝資源の利用から生ずる利益の公正な配分を目的としている。同条約の締約国会議第10回会合（COP10）が、昨年10月に愛知県名古屋市で開催され、47に及ぶ決議が採択されるなど大きな成果をおさめた。

愛知目標や名古屋議定書の採択がマスコミ等で大きく報じられているものの、その具体的な内容や採択に向けた交渉の様子、さらにはこれらの成果を踏まえ、我が国がどのような取組みを開始しているか、世界レベルでの協調がどのように展開されようとしているかなどについて、包括的に理解し考える機会は必ずしも多くはなかった。

今年の年会の機会に市民公開特別シンポジウム「生物多様性条約 COP10 ― その成果と今後の展開」として、COP10の企画・交渉・議論、さらにその後の展開に深くかかわっている環境省担当者を含む4名の講演者からご報告をいただき、参加者との間で議論を深める場としたい。

講演者：①「COP10に至る経緯と成果、今後の取組」

奥田直久（環境省自然環境局生物多様性地球戦略企画室）

②「愛知目標―新戦略計画採択をめぐる交渉」

堀切竜也（自然環境研究センター）

③「SATOYAMA イニシアティブ―人と自然の良好な関係の構築に向けて」

名執芳博（長尾自然環境財団）

④「グローバル・ターゲットとしての愛知ターゲット」

名取洋司（コンサベーション・インターナショナル・ジャパン）

シンポジウム3 9月8日(木) D会場 13:15～15:45

学術賞受賞記念シンポジウム

「温暖化問題の解決に向けたシナリオアプローチ」

オーガナイザー 甲斐沼美紀子((独)国立環境研究所 社会環境システム研究センター)フェロー
脇岡靖明((独)国立環境研究所 社会環境システム研究センター)主任研究員

挨拶: 甲斐沼美紀子((独)国立環境研究所)

趣旨説明: 地球温暖化問題は、社会経済活動と密接な関係があり、その問題解決には、自然科学的に気候システムのメカニズムを明らかにすることとともに、社会科学的人間活動を記述したモデルによる将来推計、さらには将来の社会経済の在り方を含めた議論が重要となる。本シンポジウムでは、IPCCの温室効果ガス排出に関するシナリオ(Representative Concentration Pathways; RCP)を基に、低炭素社会および適応政策のビジョンやその構築および実施に向けたシナリオの検討、対策の目標設定、さらにはこれらの評価を定量的に行うためのモデル開発やモデルの適用などをテーマに、現在の研究成果を報告するとともに、今後の研究の取り組みについて、議論することを目的としている。

講演者: ①「地球温暖化対策評価のための統合評価モデルAIMを用いたシナリオ分析」

甲斐沼美紀子((独)国立環境研究所)

②「新社会経済シナリオの構築」

藤森真一郎((独)国立環境研究所)

③「温暖化影響評価・適応策検討のための統合評価モデルの開発」

※本講演は「奨励賞受賞記念講演」を兼ねる。

脇岡靖明((独)国立環境研究所)

④「新しい全球水資源温暖化影響評価に向けて」

花崎直太((独)国立環境研究所)

シンポジウム4 9月8日(木) E会場 13:15～15:45

「地域物質循環の評価と適正規模」

オーガナイザー 後藤尚弘(豊橋技術科学大学 環境・生命工学系)准教授

挨拶: 後藤尚弘(豊橋技術科学大学)

趣旨説明: 循環型社会形成のためには適切な資源循環を確立することが欠かせない。これまでに様々な取組がなされてきたが、対象物質、地域条件によって循環の適正規模が異なることが明らかになってきた。本シンポジウムでは、各地の資源循環の事例を紹介するとともに、適正な循環圏確立のための評価方法について議論を行う。

講演者: ①「地域循環形成への科学的アプローチの期待」

藤田 壮((独)国立環境研究所)

②「北九州エコタウンを介した物質循環の変遷」

松本 亨(北九州市立大学)

③「和歌山県中部地域を事例とした間伐材のエネルギー利用による新たな資源循環の構築」

田畑智博(神戸大学)

④「富山県の産業廃棄物移動実態の解析」

佐伯 孝(富山県立大学)

⑤「愛知、長野、静岡の県境を跨いだバイオマス資源循環に関する研究」

後藤尚弘(豊橋技術科学大学)

シンポジウム5 9月9日（金）A会場 09：00～11：30

「世界で生じる水問題とその解決に向けた多様な研究アプローチ：社会科学からのアプローチ」

オーガナイザー 日引 聡（（独）国立環境研究所 社会環境システム研究センター）研究室長

挨拶：日引 聡（（独）国立環境研究所）

趣旨説明：「21世紀は水の世紀」と呼ばれるほど、世界には水に関する問題が山積している。水需要の抑制と水資源の確保、安全な水と衛生施設へのアクセス拡大、水資源の効率的な利用と効果的な配分の促進など、水問題の解決に向けた研究課題は多い。さらに、地球温暖化が世界の水循環や水利用に及ぼす影響を評価したり、水資源開発や水利用が生態系に及ぼす影響を評価したりすることも重要な研究課題である。本シンポジウムでは、水需要モデルの開発と将来の水需要分析、貿易が水逼迫緩和に与える影響の分析、水資源の効率的配分を目指した政策効果の評価などをテーマに、現在の研究成果を報告するとともに、今後の研究の取り組みについて、議論することを目的としている。

講演者：【水需要とモデリング】

- ①「国別生活用水需要モデルの開発と将来生活用水需要のシナリオ分析」
肱岡靖明（（独）国立環境研究所）
- ②「工業用水需要モデルのパラメータ決定手法の検討」
大瀧雅寛（お茶の水女子大学）
- ③「家庭における用途別水使用量推計手法の開発とアジア各国への適用」
金森有子（（独）国立環境研究所）

質疑応答

【水と世界】

- ④「農作物貿易モデル開発とバーチャルウォーターに関する実証分析」
日引 聡（（独）国立環境研究所）
- ⑤「農作物の栽培を想定した放棄地および休耕地におけるバイオ燃料の全球潜在性評価」
萩原健介（東京工業大学）
- ⑥「アジア地域における国際河川の非航行利用に関する制度設計の展望と課題」
久保田泉（（独）国立環境研究所）

質疑応答

【渇水と水資源配分】

- ⑦「多地域応用一般均衡モデルを用いた渇水時の水資源の経済的評価」
岡川 梓（（独）国立環境研究所）
- ⑧「渇水問題と制度的解決 — 2009年カリフォルニア渇水銀行を中心に —」
遠藤崇浩（筑波大学）

質疑応答

【総合討論】

総合討論

シンポジウム6 9月9日（金）C会場 09：00～11：30

「海洋ごみの実態・影響、削減に向けた今後の課題」

オーガナイザー 楠井隆史（富山県立大学 工学部）教授

挨拶：楠井隆史（富山県立大学）

趣旨説明：2009年に海岸漂着物処理推進法が成立し、国内でも、処理・発生抑制などの海洋ごみへの対策が本格的に取り組まれるようになった。しかし、現代生活を支えるプラスチック製品などを大量消費する生活様式が変わらず、今後とも海洋ごみの発生が懸念される。本シンポジウムでは、新たに解明された海洋ごみの実態、影響についての知見を明らかにするとともに、今後の海洋ごみ対策の方向性について議論することを目的とする。

講演者：①「日本海から見た東アジアの海洋浮遊ごみ」

岡本多門（鳥取大学）

②「バルーンやウェブカメラを用いた海ごみ漂着量の定量化と環境学への応用」

磯辺篤彦（愛媛大学）

③「海洋ごみ由来の化学物質による汚染」

道祖土勝彦（日本大学）

④「海洋ごみの収支から見た海洋ごみ削減方策」

藤枝 茂（鹿児島大学）

シンポジウム7 9月9日（金）D会場 09：00～11：00

「東南アジアにおける農業・気候変動と流域管理：その現状と課題」

オーガナイザー 白川博章（名古屋大学 大学院環境学研究科）准教授

挨拶：白川博章（名古屋大学）

趣旨説明： 熱帯地域は種の宝庫であり、その保全は当該国だけでなく、世界的に取り組むべき大きな課題となっている。熱帯地域の環境に大きな影響を与える重要な要因の一つは農業であり、それは東南アジアにおいても同様である。東南アジアでは、食糧需要増大にともない、耕地が拡大するとともに灌漑用水が増大し、流域環境に大きな影響を与えている。加えて、気候変動は食糧生産を低下させることが懸念されている。本シンポジウムでは、インドネシア、ラオスをケース・スタディとして東南アジアにおける農業や気候変動が流域環境に与える影響の現状と流域管理の課題を検討する。

講演者：①「アジア環境先進型流域圏の構築と普及」

沖 一雄（東京大学）

②「流域開発および気候変動が水環境に及ぼす影響」

吉田貢士（茨城大学）

③「イネの広域評価型生育・収量予測モデルの開発に向けて」

牧 雅康（京都大学）

④「リモートセンシング・GISを用いた環境にやさしい食糧生産支援手法」

本郷千春（千葉大学）

⑤「バイオ燃料の需給と温室効果ガス削減効果」

白川博章（名古屋大学）

シンポジウム8 9月9日（金）E会場 09：00～11：00

「持続可能な社会の構築に向けた環境法の役割」（2010年学術賞受賞記念シンポジウム）

オーガナイザー 柳 憲一郎（明治大学 法科大学院法務研究科）教授

挨拶：柳 憲一郎（明治大学）

趣旨説明： 環境法学は比較的新しい学問領域である。しかし、持続可能な社会構築に向けて、従来の未然防止型の公害規制の法体系から予防的・枠組み規制的な法体系へと取り組みを進化させていくことが課題となっていると思料される。本シンポジウムは環境法研究の最前線にいる方々をお迎えして、環境法学の現状と今後の方向性を討論する。

講演者：①「計画段階アセスから持続可能性アセスメントに向けた将来展望」

柳 憲一郎（明治大学）

②「持続可能性と予防原則」

朝賀広伸（沖縄大学）

③「リスク管理とリスクコミュニケーション」

織 朱實（関東学院大学）

④「規制法の現状と課題」

勢一智子（西南学院大学）

⑤「国際環境法にみる持続可能性」

岡松暁子（法政大学）

総合討論

シンポジウム9 9月9日（金）A会場 14:30～17:00

「世界で生じる水問題とその解決に向けた多様な研究アプローチ：最先端の学際的モデリング」

オーガナイザー 日引 聡（（独）国立環境研究所 社会環境システム研究センター）研究室長

挨拶：日引 聡（（独）国立環境研究所）

趣旨説明：「21世紀は水の世紀」と呼ばれるほど、世界には水に関する問題が山積している。水需要の抑制と水資源の確保、安全な水と衛生施設へのアクセス拡大、水資源の効率的な利用と効果的な配分の促進など、水問題の解決に向けた研究課題は多い。さらに、地球温暖化が世界の水循環や水利用に及ぼす影響を評価したり、水資源開発や水利用が生態系に及ぼす影響を評価したりすることも重要な研究課題である。本シンポジウムでは、最先端の学際的モデリングなどをテーマに、現在の研究成果を報告するとともに、今後の研究の取り組みについて、議論することを目的としている。

講演者：【地域モデリング】

①「集水域の灌漑地拡大の影響を考慮した水・熱収支解析によるアラル海の経年的縮小の再現」

峠 嘉哉（京都大学）

②「中国における水資源の現状と予測から見える問題点～黄河流域の地下水を中心に～」

一ノ瀬俊明（（独）国立環境研究所）

③「北海道における近年の線状降水帯と豪雨特性」

山田朋人（北海道大学）

質疑応答

【全球モデリング】

④「世界の河川を対象とした流況指標と魚類種数の関係」

岩崎雄一（東京工業大学）

⑤「世界灌漑農業アトラスの作成と利用」

小寺昭彦（神戸大学）

質疑応答

⑥「20世紀の灌漑地（HIMDaS）データを用いた農業取水量の推定」

吉川沙耶花（東京工業大学）

⑦「多様な作物分布を考慮した全球農業水需要量推定」

小槻峻司（京都大学）

質疑応答

【総合討論】

総合討論

シンポジウム10 9月9日（金）C会場 14:30～17:00

「バイオマス利活用の事業性・経済性評価」

オーガナイザー 堀 史郎（九州大学 炭素資源国際教育研究センター）教授

挨拶：堀 史郎（九州大学）

趣旨説明： バイオマス利活用については、利活用の技術や利活用計画などが進んでいる。他方、政府の事業仕訳や政策評価では、「期待される効果が発現しているものは皆無」と指摘されるような

批判もある。この理由としては、地域における対応体制やバイオマスの位置づけの検討などが十分でないことがあげられ、今後、バイオマス利活用を進めていくためには、地域での対応能力や地域での波及効果なども含めたバイオマスの利活用評価手法の開発が重要である。本シンポジウムは、九州大学が産総研バイオマスセンターと取組んでいる研究や類似の研究の報告を受け、事業性評価の考え方について議論する。

講演者：①「バイオマス事業の事業性を左右する要因について」

大隈 修（新産業創造研究機構）

②「バイオマス会計を用いたバイオマス事業の波及効果分析」

伊佐亜希子（（独）産業技術総合研究所）

③「事業所・市民のバイオマス協力行動は何によって規定されるか」

近藤加代子（九州大学）

④「森林バイオマスの経済性分析」

加藤宏昭（九州電技開発）

⑤「メタン発酵事業はどのような自治体で行われるのか（事例評価）」

高島伸幸（九州大学）

シンポジウム11 9月9日（金）D会場 14：00～17：00

「主体間連携による自治体の低炭素社会づくりの可能性」

オーガナイザー 中口毅博（芝浦工業大学 環境システム学科）教授

挨拶：中口毅博（芝浦工業大学）

趣旨説明： 昨年のシンポジウムにおいては、低炭素社会づくりや都市間連携の可能性について討議したが、地域に合った低炭素社会づくりや地域間連携について未だ発展途上であることが明らかになった。そこで今年度のシンポジウムでは、これらを促進するための各種要因や条件について明らかにするとともに、自治体間連携（都道府県間、市町村間、都道府県－市町村）、市民・事業者・行政の主体間連携、海外との連携（NGO 観の連携含む）などについて、より深い知見を得ることを目的とする。

講演者：①「日本都市における地域低炭素施策の実態と促進課題」

田中 充（法政大学）

②「CO₂ 排出特性による市区町村の類型化と低炭素施策の関係に関する研究」

中口毅博（芝浦工業大学）

③「低炭素施策の促進要因モデルとその活用法」

増原直樹（法政大学）

④「地域に根差した CO₂ 削減策導入と地域再生の可能性」

杉山範子（名古屋大学）

⑤「自治体経営体制におけるエネルギーマネジメントシステム」

山本芳華（摂南大学）

⑥「脱原発・脱温暖化ロードマップの試み－中部電力管内・全国－」

竹内恒夫（名古屋大学）

⑦「市民のカーボンオフセットによる国際連携の可能性と現状

－横浜市民・北九州市民の事例－」

中村秀規（地球環境戦略研究機関）

シンポジウム12 9月9日（金）E会場 14:00～17:00

「環境規制の政策評価：経済学的アプローチ」

オーガナイザー 有村俊秀（上智大学 経済学部）教授

挨拶：有村俊秀（上智大学）

趣旨説明： 環境問題を解決・緩和するために様々な規制が導入されてきた。規制には、環境税などの経済的手段と異なり、政策合意が得やすい、環境改善の確実性が高いというメリットがある。一方で、規制の場合、目的の環境水準を達成する費用が高くなるという大きなデメリットがある。ただし、経済学的な政策評価を実施することで、後者のデメリットは抑えることができる。本シンポジウムでは、現実の事例を用いて、環境規制に対してどのように政策評価を適用していくのか、そして、政策評価が政策立案・改案にどのように貢献できるのかを効率性というコスト面を重要視しながら、わかりやすく解説する。

講演者：①「自動車排ガス抑制政策の定量的評価」

岩田和之（高崎経済大学）

②「自動車税制のグリーン化の経済学的評価：事前の評価と事後の評価」

藤原 徹（明海大学）

③「情報的手段がもたらす家計の省エネ行動への影響分析」

森田 稔（上智大学）

④「家庭部門の節電促進—経済的インセンティブは有効か—」

溝渕健一（松山大学）

⑤「応用一般均衡分析による温暖化対策の評価」

武田史郎（関東学園大学）

⑥「国内排出量取引制度の国際リンクに関する経済分析

—応用一般均衡分析による直接・間接リンクの評価—」

杉野 誠（上智大学）

特別企画シンポジウムプログラム

創立 25 周年記念

市民公開特別シンポジウムー ①

シンポジウム 1

9 月 8 日（木）A 会場 09：30 ～ 11：45

「東日本大地震における環境科学の役割」

オーガナイザー：社団法人 環境科学会

市民公開特別シンポジウムー ②

シンポジウム 2

9 月 8 日（木）A 会場 13：15 ～ 15：15

「生物多様性条約 COP-10 ― その成果と今後の展開」

オーガナイザー：大塚柳太郎（（財）自然環境研究センター）理事長
荒巻俊也（東洋大学 国際地域学部）教授

※ 詳細については、企画シンポジウムプログラムをご覧ください。